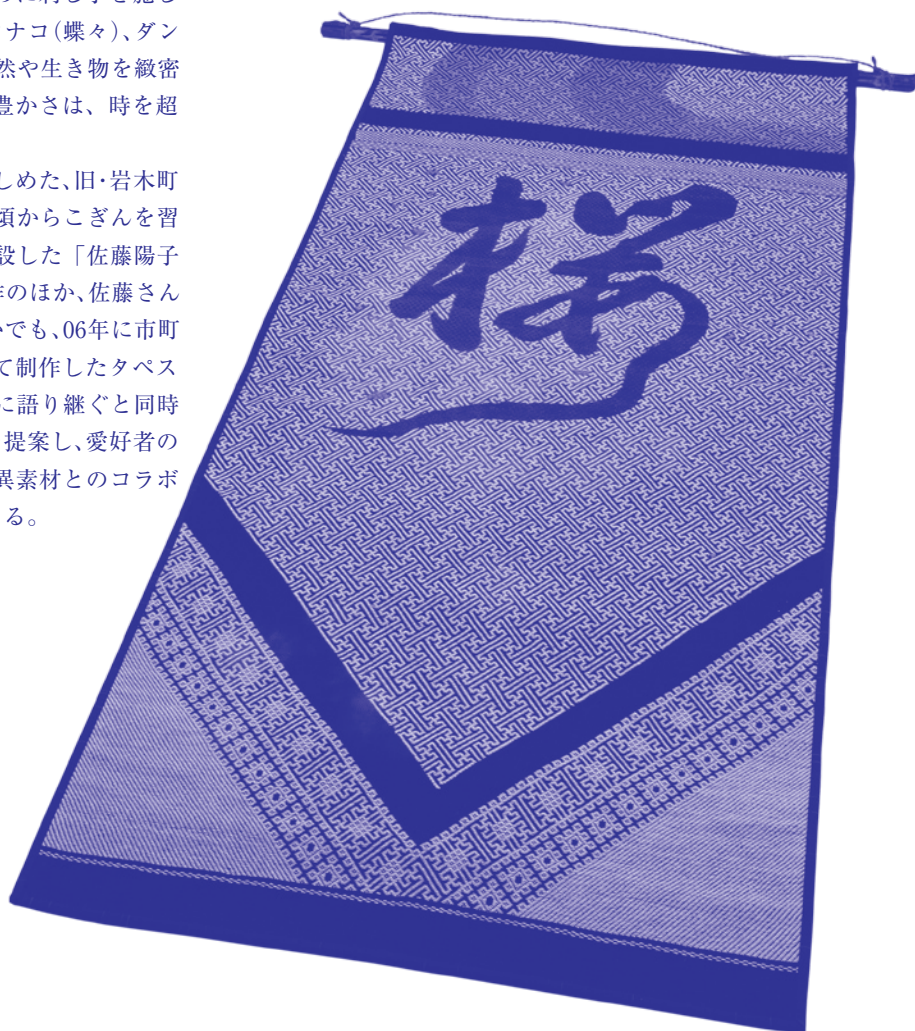


暮らしの知恵と津軽人の美意識が生み出した、幾何学模様。

こぎん刺しは江戸時代の藩令により麻布の着用しか許されなかった農民が、布の補強と防寒のために刺し子を施したのが始まり。フクベ(ひょうたん)、テコナコ(蝶々)、ダンブリコ(とんぼ)、クボ(蜘蛛)サシなど、自然や生き物を緻密な幾何学模様で表現した津軽人の感性の豊かさは、時を超えて心を揺さぶる。

こぎん刺しの文化を広く海外にも知らしめた、旧・岩木町の前田セツさん(故人)のもとで、20歳の頃からこぎんを習っていた佐藤陽子さんが2010年自宅に開設した「佐藤陽子こぎん展示館」には約150~200年前の古作のほか、佐藤さんのオリジナル作品を約200点程展示。なかでも、06年に市町村合併で新しく誕生した弘前市を記念して制作したタペストリー「桜」は圧巻。「こぎんの文化を大切に語り継ぐと同時に、現代の暮らしにも馴染みやすい作品を提案し、愛好者の裾野を広げていきたい」と、斬新な作品や異素材とのコラボ作品もあり、こぎんの楽しさを再発見できる。



Access

- 交通／東北自動車道 大鰐・弘前インターより車で30分。弘前駅よりタクシーで15分。バスで20分「市役所前公園入口」下車、徒歩3分。
- 駐車場／藤田記念庭園駐車場(無料)、弘前市役所(1時間無料)

佐藤 陽子(さとう ようこ)

1949年旧岩木町(現・弘前市)生まれ。故・前田セツさん、高橋寛子さんらに師事し、こぎんを習う。2010年3月弘前市職員を定年退職し、同年7月「佐藤陽子こぎん展示館」オープン。

藤田記念庭園

弘前市上白銀町8-1 ☎0172-37-5525

■開園時間／9:00~17:00 ■休園日／無休